

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成29年3月23日(2017.3.23)

【公表番号】特表2016-519724(P2016-519724A)

【公表日】平成28年7月7日(2016.7.7)

【年通号数】公開・登録公報2016-040

【出願番号】特願2016-504747(P2016-504747)

【国際特許分類】

D 0 6 P	7/00	(2006.01)
D 0 6 P	5/00	(2006.01)
D 0 6 P	3/16	(2006.01)
D 0 6 P	3/62	(2006.01)
D 0 6 P	3/54	(2006.01)
D 0 6 P	3/66	(2006.01)
D 0 6 P	3/24	(2006.01)
D 0 6 P	3/06	(2006.01)
D 0 6 P	3/04	(2006.01)
D 0 6 P	3/14	(2006.01)
D 0 6 P	5/20	(2006.01)
D 0 6 M	23/08	(2006.01)

【F I】

D 0 6 P	7/00	
D 0 6 P	5/00	1 0 5
D 0 6 P	3/16	
D 0 6 P	3/62	
D 0 6 P	3/54	Z
D 0 6 P	3/66	A
D 0 6 P	5/00	1 0 2
D 0 6 P	3/24	C
D 0 6 P	3/06	
D 0 6 P	3/04	D
D 0 6 P	3/14	D
D 0 6 P	5/20	A
D 0 6 M	23/08	

【手続補正書】

【提出日】平成29年2月14日(2017.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

基質に対する処理剤の適用方法であって、前記方法が密閉容器中の固体微粒子処理剤を含む水性システムにおける予備湿潤化基質の処理を含み、前記処理が2:1以下の溶液対基質の比で行われ、

前記基質が前記固体微粒子処理剤を含む水溶液で処理され、前記処理剤が前記水溶液中に部分もしくは完全溶解形態または部分もしくは完全懸濁もしくは分散形態で存在し、

前記基質が天然もしくは合成織物基質、または天然、人造および／もしくは合成織物織維のブレンドを含む基質を含み、

前記天然織物基質が羊毛、綿および／または絹を含み、

前記合成織物基質がポリエステル、ポリアミド、ポリアルケン、ポリアクリロニトリルおよび／または二もしくは三酢酸セルロースを含み、

前記固体微粒子処理剤が少なくとも1つの染料を含み、前記方法が添加される電解質の非存在下で行われ、

前記固体微粒子処理剤が、任意に、粉末またはペレットを含み、

前記固体微粒子処理剤が、任意に、処理システムに処理する基質の1～5%w/wの範囲内のレベルで添加される、方法。

【請求項2】

前記少なくとも1つの染料が、任意に、酸性染料、アゾ系着色剤、塩基性染料、直接染料、反応性染料、分散染料、バット染料および硫化染料から選択される、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記方法が添加される染料吸収促進添加物の非存在下で行われ、前記染料吸収促進添加物が、任意に、硫酸、酢酸およびギ酸等の酸；酢酸／酢酸ナトリウムおよびオルトリニ酸二水素ナトリウム／オルトリニ酸水素二ナトリウム等の緩衝剤；乳酸ジエチル、乳酸エチルおよび-ブチロラクトン等の酸供与剤；または、アリールスルホン酸のタンパク質縮合物、ポリリン酸塩、リグニンスルホン酸塩およびホルムアルデヒド重縮合物等の分散剤；から選択され、および／または、

前記方法が、塩化ナトリウム、塩化リチウム、塩化カリウム、塩化セシウムおよび硫酸ナトリウム等のアルカリ金属のハロゲン化物または硫酸塩、ならびに、モノ-、ジ-、および／もしくはトリカルボン酸の塩またはベタイン、から選択される電解質の非存在下で行われる、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記基質が天然織物基質を含み、前記少なくとも1つの染料が反応性染料または直接染料から選択される、請求項1～3のいずれかに記載の方法。

【請求項5】

前記固体微粒子処理剤が化学的織物仕上げ剤を含み、前記化学的織物仕上げ剤が、任意に、撥水剤、抗しわ剤、抗菌剤および蛍光増白剤から選択される、請求項1、2または3に記載の方法。

【請求項6】

前記水性システムが少なくとも1つの追加の補助剤を含み、

前記少なくとも1つの追加の補助剤が、任意に、アルカリ物質、酸、酸化剤および還元剤から選択されてもよく、および／または、

前記少なくとも1つの追加の補助剤が、任意に、界面活性剤を含み、および／または、

前記少なくとも1つの追加の補助剤が、任意に、0.5～10.0g L⁻¹の範囲内のレベルで添加される少なくとも1つの界面活性剤を含み、および／または、

前記少なくとも1つの追加の補助剤が、任意に、1～15g L⁻¹の量で添加される少なくとも1つのアルカリ化剤を含み、および／または、

前記固体微粒子処理剤が、任意に、前記少なくとも1つの追加の補助剤をさらに含む、請求項1～5のいずれかに記載の方法。

【請求項7】

界面活性剤の非存在下で行われる、請求項1～5のいずれかに記載の方法。

【請求項8】

前記処理が、

(a) 前記固体微粒子処理剤を含む水溶液を用いる基質のウェットアウトであって、2:1以下の溶液対基質の比で行われる前記ウェットアウト、または

(b) 前記基質の片面または両面を、前記固体微粒子処理剤を含む水溶液で、2:1以

下の溶液対基質の比をもたらすようにスプレーするステップ、または

(c) 基質の水でのウェットアウトおよびその後のウェットアウト基質の固体微粒子処理剤での処理

のいずれかを含む、請求項1～7のいずれかに記載の方法。

【請求項9】

20～140の範囲内、任意に50～65の範囲内の温度で、および／または、
1：1の溶液：基質比で行われ、および／または、

前記密閉容器が、任意に、金属またはプラスチックから任意に形成された、封止染料ポットまたは他の封止可能な染色もしくは織物処理装置であり、および／または、

前記基質を含有する水性システムが任意に前記方法の実施中に搅拌され、および／または、

前記処理が10～45分の期間行われる、請求項1～8のいずれかに記載の方法。

【請求項10】

処理した前記基質にその後ウォッシュオフおよび／またはすすぎが行われ、ならびに、
前記方法が、任意に、前記適用後の前記基質の水での3回以下のウォッシュオフ処理を含む、請求項1～9のいずれかに記載の方法。

【請求項11】

前記方法が順に、
(a) 2：1以下の水対基質の比での密閉容器における処理基質の水での第1ウォッシュオフステップ；

(b) 2：1以下の水対基質の比での密閉容器における処理基質の水での第2ウォッシュオフステップ；および

(c) 20：1以下の水対基質の比での密閉容器における処理基質の水での最終ウォッシュオフステップ

を行うことを含む3段階プロセスを含み、

前記密閉容器における処理基質の水での最終ウォッシュオフが、任意に、5～10：1の範囲内の水対基質の比で行われ、および、

前記基質が、任意に、各ウォッシュオフステップ後に周囲温度で水道水ですすぐれ、
請求項10に記載の方法。

【請求項12】

前記第1および第2ウォッシュオフステップが周囲温度(15～25)で行われ、前記最終ウォッシュオフステップが40～80、とりわけ約70の温度で行われ、ならびに／または、各ウォッシュオフステップの期間が10～15分の範囲内であり、または

前記第1および第2ウォッシュオフステップが周囲温度(15～25)で10～15分の範囲内の期間行われ、前記最終ウォッシュオフステップが周囲温度(15～25)で15～45分の期間行われる、請求項11に記載の方法。

【請求項13】

前記方法が順に、
(a) 5：1以下の水対基質の比での密閉容器における処理基質の水での第1ウォッシュオフステップ；および

(b) 10：1以下の水対基質の比での密閉容器における処理基質の水での第2ウォッシュオフステップ

を行うことを含む2段階プロセスを含み、

前記密閉容器における処理基質の水での第1ウォッシュオフステップが、任意に、周囲温度(15～25)～98の温度で行われ、ならびに、

前記基質の各ウォッシュオフステップ後の周囲温度で水道水でのすすぎが、任意に行われない、請求項10に記載の方法。

【請求項14】

前記第2ウォッシュオフステップが15～25の周囲温度で行われ、および／または

前記第1ウォッシュオフステップの期間が15分の範囲内であり、および／または、
前記第2ウォッシュオフステップが約3分の期間行われる、請求項13に記載の方法。

【請求項15】

前記ウォッシュオフプロセスのうちの1つ以上が添加される補助処理剤の非存在下で行
われる、請求項10～14のいずれか1項に記載の方法。